

1 漢文を手がかりに人物像に迫った授業展開例

教科(科目)	地歴公民 (世界史 B)	単元名	第 2 章 アジア・アメリカの古代文明 3. 中国の古典文明 本時(3 時間目 / 3 時間)
本時の主題	秦の滅亡と漢王朝の成立と発展		
本時の目標	(1) 国語の漢文で学習したことをてがかりに、中国史の基本的事項の理解に自ら取り組もうとする。【関心・意欲・態度】 (2) 秦の滅亡と漢の成立を理解する。【知識・理解】 (3) 古典の文献から歴史的事件の具体的なイメージをふくらませ、自分でそれを表現できる。【技能・表現】 (4) 秦と漢の統治の方法を比較し、中国王朝の統治の相違と変遷について思考することができる。【思考・判断】		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
導入 前時の復習 (5分)	1 秦の行政組織や政策、前時の復習	・既習事項より、歴史的な素材を見つける。	
秦の滅亡の理解 (25分)	2 秦の滅亡と項羽と劉邦の争い ・秦の滅亡の原因を考えてみよう <生徒> ・法治主義の弊害とはどのようなものがあるのか？ ・大規模な土木事業の具体的なものは？ ・陳勝・呉広の乱 = 「王侯相将いずくんぞ種あらんや」の意味は？	・項羽と劉邦の話から歴史のおもしろさを見つける。 ・秦の滅亡原因を反乱など具体的な例を出して理解させる。 ・トピックのような話題を話してやることで具体的なイメージや驚きを持たせるようにする。【技】 <評価方法> 挙手・発言	
	漢文「四面楚歌」を味わおう 「力は山を抜き気は世を蓋う 時に利あらず驩ゆかず 驩のゆかざる奈何すべき 虞や虞や若しを奈何せん」 <生徒> ・なぜ項羽はこんな歌を歌ったのか？ ・楚の歌を聴いたら兵士はどんな気分になるのか？ ・本当に楚の住民が歌っているのか？違ったとしたら？ ・そんなに虞美人はきれいなのか？ ・虞美人はこの後どうなったのか？	・「四面楚歌」の状況を理解させるとともに、項羽の胸中を探ってみる。 <評価方法> 挙手・発言 【関】	
	漢文「項王の最期」を読んで 項羽はなぜ自らの命を絶ったのだろうか？ <生徒> ・なぜもう一度やり直そうと思わなかったのか？ ・天が滅ぼそうとしているってどういうこと？ ・なんてあっさりした死に方なの？ ・項羽は悔しかったのだろうか・・・	・項羽の死から彼の人物像をとらえる。 <評価方法> 挙手・発言 【技】	
前漢の成立と発展・滅亡の理解	3 前漢の成立 建国者 高祖劉邦について 漢文「高祖三傑を評す」を読んで 項羽や劉邦を取り巻く人々の紹介・・・資料より 張良・蕭何・韓信・范増 <生徒> ・項羽の方がどの能力値を見ても高いのになぜ負けるのか？ ・劉邦はなぜ勝つことができたのか？ ・それぞれの活躍した人物を見てみると特徴があってももしろい	・建国の年代を確認し、日本における時代を考察する。 ・漢の建国の立て役者と劉邦の人物像を理解する。【知】 漢王朝の成立について、プリント確認 ・後の三国志の登場人物に関係させて中国史により深い興味を持たせる。	

<p>(15分)</p>	<p>漢の統治機構について</p> <p>・秦と漢の統治方法の違いを考えよう</p> <p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・郡県制を採用しなかった理由は？ ・親族や功臣を大事にした理由は何だろう？ <p><先生></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外征はどうなったのだろう？ ・呂後の専横についての説明(中国3悪女) <hr/> <p>4 呉楚七国の乱と武帝の政治</p> <ul style="list-style-type: none"> 内政について 外征について 財政再建について 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢の統治組織が秦の反省を基にしていることに着目する。【思】 <p><評価方法></p> <p>プリント提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秦の政策との違いを理解させることでその当時の中国を取り巻く状況や国力を理解する力を養う。 ・中国の今後の歴史への興味を引き出す。 ・反乱の原因を理解する。 ・中央集権体制の確立と内政・外征や問題点などをとらえさせる。
<p>次回の予告(5分)</p>	<p>5 本時のまとめと次回の予告</p>	

注9

注10
注11

<指導上のポイントと考察>

注1 中間考査のあと生徒から回答を得たアンケートの結果からは、中学校であまり世界史を学習していないためか、世界史に興味を持って学習する生徒が極めて少ないことが把握できていた。その中でも中国史は、「漢字」を覚えるというイメージがあるためより強い拒否反応を示す傾向があった。さらに、まだ授業で学習していないにもかかわらず、すでに1/3の生徒が中国史を苦手と判断していた。しかし、中国史は歴史的にも奥が深く、我が国への影響は文化のみならず政治形態にまで及んで大変大きなものがあり、日本は様々な点においてその恩恵にあずかっている。また、「新指導要領」の「世界の中の日本」という単元から考えても、身近な国でありつながりが大変深いという面でも中国史の単元は大切にしなければならない。

そのため、生徒が中国史を好きになり、取り組みを活発にするにはどうすればいいのかを考え、以下の3つの点を踏まえて授業展開を実践してみた。

- 1 故事成語や歴史的な有名人物の登場した事件を物語風に扱う授業展開を心がける。
- 2 時代順の知識の羅列ではなく、中心人物を設定しそれを取り巻く事件や出来事などにふれていく。
- 3 中学校で学習している日本の歴史の内容を常に授業の中に取り入れながら、時代感覚や日本への影響を理解させていく。

この授業では、「項羽と劉邦」という一大叙事詩を中心に授業を進めた。

- 注2 秦の内政や外征を再度おさえて、次の時代の漢の内政や外征との違いを深く理解させる一助とする。
- 注3 漢文で1年の冬に学習した「四面楚歌」「項王の最期」を題材にし、項羽と劉邦の中国を統一するまでの歴史的事項を物語として理解し、興味・関心を高めるとともに、自らが歴史に対する主体的な学習姿勢を培いたい。また他の教科を通して総合的に学習する大切さを教えていきたい。
- 注4 陳勝・呉広の乱、阿房宮、万里の長城などの事件や建築物から秦の政治の混乱の原因を考えさせ、法治主義の問題点などを理解させたい。また項羽と劉邦の蜂起の原因も理解させたい。
- 注5 阿房宮の大きさ、万里の長城の長さなど具体的な大きさや長さを我々の身近なものと比較して述べ、写真なども使って、大規模な土木工事などの厳しさをイメージによって深めるようにしたい。
- 注6 「四面楚歌」の状況をイメージさせ、項羽の驚きや絶望と悲しみを、愛しい女性すら守れないもどかしさ、憤りを伝えたい。
- 注7 紀元前2世紀の時代が、西にあるローマ共和国ではポエニ戦争が終わり、発展している最中だということを理解させ、東は日本とのつながりの中で弥生時代に中国では壮大な王朝ができていたことを分らせたい。日本との交流は、日本史で既に学習している「漢書地理志」を引き合いに出し、古代における交流

への理解を深める。

- 注8 高祖劉邦の部下である3人の人物から、劉邦が「將の將」として多くの將軍達をまとめあげた推移を述べるとともに、その後建国の際、諸侯や功臣達をねぎらうためにも、郡国制を実施したということを理解させる。
- 注9 漢の統治組織を秦と比較し、この後の時代の中国の統治組織について理解を深めるように説明する。
- 注10 部下の蜂起などの教科書には書いていない事項を説明によって補うとともに、歴史の深さやおもしろさを理解する一助とし、その部下の蜂起が呉楚七国の乱を起こした原因であることを述べる。また、それが次の武帝の統治の方法にどのような影響を与えたかも後に説明する。
- 注11 今まで学習してきた中央集権体制の国家（アケメネス朝、アッシリアなど）と比較し、その形態の違いと中央集権の意義を理解させる。

単元の目標

東アジア・内陸アジアの風土、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動揺、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。

各時間ごとの内容

1 東アジア世界と中国の王朝		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
東アジアの風土と人々 中国文明の発生 殷と周	東アジア・内陸アジアの多様な自然と生活の様子を通して、農耕や牧畜にも様々な形態があることが理解できる。【知】 黄河文明の成立と長江流域の文明の生活に目を向けさせ、中国古代文明独自の新石器文化の特徴が理解できる。【知】 殷・周の成立を理解し、漢字の起源など日本への影響などについても考えることができる。【思】	地図を利用し地域ごとの自然環境を理解させる。 資料集の写真などを使い、土器の成立と発展を理解させる。 他の地域の古代文明との対比を行い理解を深める。 プリント提出
2 春秋戦国時代と秦の統一		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
春秋・戦国時代 社会変動と新思想 秦の統一	春秋・戦国時代の経済や文化の発展について理解するとともに、周辺民族の活動についても目を向けることができる。 【関】 中国独自の発展を遂げた思想の成立と発展を学習することで、今後の中国の歴史の発展を理解することができる。【知】 秦の成立による皇帝の登場や制度の確立などを理解することができる。【知】	地図や写真によって理解を深めさせる。 思想ごとにまとめ、発展について考えさせる。 秦の政治の形態についてプリントを利用しまとめる。 プリント提出
3 秦の滅亡と漢王朝の成立と発展		
主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
秦の滅亡 漢代の社会と文化 秦・漢帝国と世界	国語の漢文で学習したことをてがかりに、中国史の基本的事項の理解に自ら取り組もうとする。【関】 秦の滅亡と漢の成立を理解する。【知】 古典の文献から歴史的事件の具体的なイメージをふくらませ、自分でそれを表現できる。【技】 秦と漢の統治の方法を比較し、中国王朝の統治の相違と変遷について思考することができる。 【思】	項羽と劉邦の争いなど古典を鑑賞させることで、時代を生きた人物を身近なものにする。 特に日本との交流を史料などをを用い理解させ、その影響などについても考えさせる。 プリント提出